

秋号 運動場芝生維持管理だより

保健体育課
体力向上推進係

9月も後半に入り、ようやくのぎやすい気候となりました。初旬には大雨が降り、奈良県南部では大きな被害が出ました。雨が降ると芝生にとっては嬉しいことですが、また被害が出ないかと心配なところでもあります。運動場芝生化マニュアルや維持管理だよりにも掲載していますが、散水については雨天時の対応など天候を見ながら適切に行っていただきたいと思います。

秋号は、オーバーシーディング(冬芝による)についてお知らせします。内容については、「シビルまちづくりステーション」に協力をいただいています。

1 オーバーシーディング

ティフトンなどの夏芝は、冬になると枯れて休眠をします。冬の間も使用頻度が高い運動場では、踏圧などにより、夏芝を傷めてしまうことがあります。傷むと次の年に補植をしなくてはなくなる可能性があるため、冬の間は寒さに強い冬芝を生育させて夏芝を保護します。また、オーバーシーディングをすることで、1年を通して緑の芝生の上で、活動することができます。

2 冬芝の種類(一例)

オーバーシーディングの芝生には多くの品種があり、気候の違いや運動場の使用状況などにより使用する品種が変わってきます。その中でも本県では発芽や生長が速く、夏の暑さに弱い特徴のあるライグラス類ペレニアルライグラス、インターミディエイトライグラスという種類が多く使われています。

○インターミディエイトライグラス(サツキワセ等)

ペレニアルライグラスとイタリアンライグラスの交雑種で、ペレニアルライグラスの耐性とイタリアンライグラスの夏芝へ移行のスムーズさを組み合わせた種類です。

○クイックトランス

ペレニアルライグラスの一種で耐性に優れ、使用頻度が高く比較的強度の運動を行う場所に適しています。



3 時期

種類にもよりますが、一般的に冬芝の発芽適温は20℃～25℃とされています。9月に入り最高気温が30℃を下回る頃から種まきができます。あまり遅い時期に種をまくと発芽率が悪かったり、発芽後の生育も遅くなり養生期間が長くなったりします。秋に運動会などの行事がある場合は、計画的に種まきができる準備をしてください。種は夏芝を3～4cmに刈り込み、1000㎡あたり約40kgを目安にまきます。大雨の予想が出ているときは、種子が流れてしまうので延期します。

4 手入れ

①養生期間

種まき後、約3週間の冬芝は踏圧に弱い時期なので利用を制限し養生をします。体育の授業などで、常に使用したい場合は、運動場を分割し時期をずらして種まきをします。種まき後は、鳥が種を食べに来ることがあるので、鳥よけテープや案山子で対策をします。

②散水

種まき後、約2週間は一日1回1000㎡あたり約1mm(1t)を、日中の温かい時間帯に散水します。また、気候や発育に合わせて水量を調節します。

③刈り込み作業

夏芝と同様に3～4cmを目安に生育状態や運動場の使用状況を見ながら行います。

④追肥

冬を元気に過ごさせるためにも11月頃に1度、1000㎡あたり約40kgを散布します。



※ 芝生の状態は各校によって違います。また、気象状況も変化します。芝生の様子を見ながら、作業を調節してください。詳しいことが、お聞きになりたいときは、担当係までご連絡ください。